

法律科目試験問題（刑事訴訟法） 配点 50 点

問 1 以下の【設例】を読み、【設問】に答えなさい。(25 点)

【設例】

平成 24 年 8 月 25 日午後 11 時過ぎに、豊中市内のアパートに居住する大学生甲は、アパート前の路上で「この野郎、ぶっ殺してやる。」「やれるもんならやってみろ、そんなへっぴり腰で俺が刺せるか。」などという怒鳴り声を聞き、部屋を出た。するとアパート前の路上に胸から血を流した男性 (B) が倒れており、その傍には血のついたナイフを右手に持ち、茫然と立っている男性 (A) が居た。甲はその様子から、喧嘩口論中に A が B をナイフで刺したものと考えた。そこで甲は、A からナイフを取り上げ、3 メートルほど離れた公園の生け垣にナイフを放り込み、A が逃げないように背後から A のズボンのベルトをつかんだ。甲は A のベルトをつかんだまま、携帯電話で 110 番通報及び 119 番通報をした。同日午後 11 時 25 分ころ、B は救急車で病院に搬送された。

現場に急行した警察官 P は、甲が「この人が救急車で運ばれた男性をナイフで刺したようです。」と述べたので、P は同日午後 11 時 35 分、A を殺人未遂の事実で逮捕するとともに、甲が指示した公園の生け垣の中を探し、ナイフを差押えた。なお P が A に対し、「殺人未遂で逮捕する。」と告げるまで、甲は A のベルトをつかんだままであった。

病院に搬送された B は、翌 8 月 26 日午前 1 時、出血によるショックのため死亡した。

【設問】 上記事実を前提に、A の逮捕及びナイフの差押えについて、その適否を論じなさい。

問 2 次の用語について、関連する条文に言及しつつ、各 150 字程度で説明しなさい。(25 点)

- ① 捜査の端緒
- ② 令状主義
- ③ 起訴猶予
- ④ 交互尋問制度
- ⑤ 伝聞証拠